

昭和44年3月に学部を卒業し、院生として阿武山地震観測所で5年間、三木晴男先生にお世話になりました。その後、会社に就職し、退職後は縁あって俳句について勉強しています。俳句に対して皆さんが持っている諸々の常識が必ずしもそうではないということ、また今、俳句界は新しい時を迎えようとしていることなどを、京大俳句の話を交えながら、これから述べてみたいと思います。

俳句は季語と五・七・五の有季定型、老人の文学というのが常識とされています。実際、俳句を楽しむ人の8割は年配の方、8割が女性です。しかし、かつて昭和戦前期の新興俳句の時代は京大俳句会や東大俳句会の若い人たちが主役となり、京大俳句会を中心に無季、超季という季語の無い俳句へと進みました。

彼らの敵役であった高浜虚子でさえ今の私より若い60歳でした。後に申しますが、高浜虚子は伝統俳句のドンとされる一方で、実にフレキシブルな、恐るべき二面性を持った俳人です。また、歳時記は春夏秋冬の季節軸で分類するのが当たり前とされていますが、私が目指すのは季節軸に代わる物象軸で分類する歳時記です。そして、私も在学中に1年間だけ参加したことのある京大俳句会が2010年4月、27年振りに復活しました。

昭和6年10月に東大出身の水原秋桜子が虚子の支配するホトトギスを脱退し、新興俳句の時代が始まりました。昭和8年1月には京鹿子から独立して、京大俳句が創刊されました。主宰者を置かず、みんな平等の立場を取った初めての俳句団体です。原点となった京鹿子のオーナーは吉田神社の鈴鹿家で、京鹿子は俳句界を代表する団体の一つとして現在も続いています。

昭和15年2月には京大俳句事件が起こり、治安維持法違反で井上白文地、渡辺白泉らが逮捕、投獄されました。白文地は京大、白泉は慶応大の学生で、レジュメのように無季俳句を詠んでいます。事件は数次に及び、京大外や大学人以外、地方にも波及し、昭和18年までの4年間に全国で44人が検挙され、その大半が二十代、三十代の気鋭の若者たちでした。

彼らは1～2年で釈放されましたが、白文地は前線へ送られシベリヤで消息を絶ちます。有季を守った長谷川素逝も句集『砲車』で戦争を賛美したとして、戦後に戦争責任を問われます。こうして京大俳句は革新的な人も保守の人も糾弾されましたが、東大俳句会ではそんなことはありませんでした。純粹一途、権力と無縁、というのが京大俳句のDNAなのかも知れません。

新興俳句の時代、昭和9年10月に篠原鳳作が無季俳句の名作「しんしんと肺碧きまで海のたび」を発表しました。私は瀬戸内の四国高松、鳳作は鹿児島の人ですが、海が結ぶ縁で海のない京都の街の古本屋で、二十歳の頃、鳳作の俳句に心を奪われました。私は2006年9月に鳳作の評伝『鳳作の季節』を上梓しました。その年が鳳作の生誕100年であり、私の還暦でもありました。この本を書くことを思い立って、10年前に54歳でサラリーマンを辞めました。この上梓によって、無名人の私が多くの俳人とつながることになりました。

2008年4月には不定期刊の小冊子「新歳時記通信」の刊行を始めました。従来の季節軸に代わる物象軸による新しい歳時記の形を具体的に提案することにより、有季と無季の融合を計り

俳句の理想郷を実現したいという訳です。従来のような季語論争は永遠の水掛け論に終始するでしょう。論より証拠。資料を調べ尽くす所から始めて「観察・分析・発見」、それが理系の手法です。二、三の例を紹介します。

霞（春）と霧（秋）：気象学的に同じ現象を春は霞、秋は霧と季節で言い分けているというのが俳句界の常識となっている。しかし、霞と霧は気象学的にも異なる現象であり、全ての季節に霞と霧がある。

海原の秋の霞を食べに来よ 田部谷 紫

滝（夏）：涼感があるからと夏の季語とされるが、次の名句は桜の季節の那智の滝。

滝落ちて群青世界とどろけり 水原秋桜子

海女（春）：アワビは夏であり、春の海女が夏のアワビをどうやって採るのかと思っていたら、アワビ海女（夏）という季語が最近出来た。アワビは春にも夏にも採れるし、海女は一年中仕事がある。そして、次は海女が春でも夏でも係わりのない句。

海女として鉄道員の妻として 上野 泰

原爆忌：広島8月6日、長崎8月9日の間に立秋8月7日が来る。原爆忌は夏か秋か未だに論争が絶えず、原爆忌という言葉自体を云々する俳人もいる。しかし、人間であれば次句の気持ちが本当ではないか。

人も蟻も雀も犬も原爆忌 藤松 遊子

西瓜（秋）：夏ではなく、秋が伝統だとされるが、秋と言っても初秋8月。芭蕉の時代は夏、近現代も正岡子規一派や秋桜子は夏、虚子も一時は夏にしていた。次句は西瓜が夏でも秋でも係わりがない。

西瓜切るとき円周率を考える 有田 文

サメ（冬）：なぜ冬かの説明は長くなるが、現在は人がサメの姿を見るのも被害に会うのも夏。海遊館のジンベエザメは一年中見ることが出来る。次句も夏のイメージである。

猫鮫と蝶鮫とみる至近距離 上野 遊馬

最後に、虚子のことについて触れてみたいと思います。保守本流の虚子にとっては、花鳥諷詠や客観写生は俳句を大衆のものにするための一種の工夫であったのではないのでしょうか。実際の指導においても、季語さえ入っていれば題材は何を詠んでも良いとしています。「川を見るバナナの皮は手より落ち」という夏の季語の句が11月に作られています。虚子は季語がなければ作れば良いとして、芽は春、カーテンは夏、ヘルメットは夏と、何でも季語にしています。先の例で述べた滝を夏の季語としたのも虚子です。

虚子は更に無季俳句も作っています。「祇王寺の留守の扉（とぼそ）や推せば開く」は有名です。また、偽名も使って、無季俳句を作っています。「我に似し人を気おひてけなしけり」の句が谷口清の名でホトトギス雑詠に掲載されていますが、“我に似し人”とは新興俳句の時代に袂を別った秋桜子ではないかと私は思っています。

そして、虚子は新興俳句全盛の昭和10年～15年に、ホトトギス雑詠で無季俳句を100句ほど選んでいます。ホトトギスは必ずしも有季定型とは言えない歴史を数々持っているのです。

虚子は生前「自分が死んだら俳句は月並みに帰るだろう」と言っています。虚子の言うことを鵜呑みにして本質を理解しないでいると、そうなるという意味です。そして今、俳句界は実際に月並に堕しています。一方で、俳句甲子園、新撰21、超新撰21の選抜による新人の発掘など、新しい動きも次々と起こっています。少しずつ、確実に時代は変わりつつあります。

○質問1：桑原武夫の第二芸術論はどう考えるか？

●回答1：真っ向から論証することは余り興味がない。こうした論が外部から起こらざるを得ない程の俳句界の閉鎖性こそが問われているのだと思う。短歌、詩、文学など他の分野や、一般の人と積極的に触れ合っこそ、真の芸術である。

○質問2：俳句と川柳の違いは？

●回答2：季語のあるのが俳句で、無いのが川柳というのは違う。現在は多分にボーダレスで、川柳のテイストで名を馳せる俳人があり、季語のある川柳、俳句と見紛うばかりの川柳は多い。当人が俳句と言えば俳句、川柳と言えば川柳、そういう時代になって来ている。

「京大俳句のDNA」	前田 霧人（まえだ きりひと）
<p>◎ 俳句の常識は非常識</p> <p>俳句の形式：五・七・五 と 季語            俳句：老人の文学 → 新興俳句の時代 青年が主役            カタキ役の高浜虚子 60歳            高浜虚子：伝統俳句のドン            歳時記：春・夏・秋・冬 季節軸で分類</p> <p>◎ 新興俳句の時代</p> <p>大正 9年11月：京鹿子 創刊            昭和 6年10月：水原秋桜子 ホトギスを脱退            昭和 8年 1月：京大俳句 創刊            昭和 9年10月：篠原鳳作 無季俳句の名作            昭和11年 9月： ” 30歳で急逝            昭和15年 2月：京大俳句事件 治安維持法違反            昭和16年12月：太平洋戦争</p>	<p>季語のない俳句 → 無季・超季</p> <p>京大俳句会 と 東大俳句会            2010年4月 京大俳句会 27年ぶりに復活            おそろべき 二面性 → フレキシブル            物象軸で分類</p> <p>葡萄含んで物言ふ唇(くち)の紅濡れて 日野 草城            さよならと梅雨の車窓に指で書く 長谷川素逝            「京鹿子」が「京大俳句」の原点 → 吉田神社 鈴鹿家</p> <p>しんしんと肺碧きまで海のたび 篠原 鳳作            繙帯を巻かれ巨大な兵となる 渡辺 白泉            銃剣の光講義の窓を去らず 井上白文地            井上白文地 → シベリアで消息を絶つ            長谷川素逝 → 句集『砲車』 戦争責任</p>

◎ 鳳作の季節 (2006年9月)

鹿児島の人、篠原鳳作の評伝  
無名人が、多くの俳人とつながる

◎ 新歳時記通信 (2008年4月～)

季節分類から物象分類へ → 有季と無季の融合  
季語論争 → 永遠の水掛け論 → 論より証拠

霞 (春) と 霧 (秋) : 気象学的に同じ現象と

海原の秋の霞を食べに来よ 田部谷 紫

滝 (夏) : 涼感があるから、夏と

滝落ちて群青世界とどろけり 水原秋桜子

海女 (春) : アワビ (夏) → アワビ海女 (夏)

海女として鉄道員の妻として 上野 泰

原爆忌 : 広島 8月6日 長崎 9日 立秋 8月7日

人も蟻も雀も犬も原爆忌 藤松 遊子

西瓜 (秋 8月) : 秋が、伝統だと

西瓜切るとき円周率を考へる 有田 文

サメ (冬) : 冬と係わりのない例句

猫鮫と蝶鮫とみる至近距離 上野 遊馬

◎ 虚子の花鳥諷詠

「自分が死んだら俳句は月並に帰るだろう」 虚子

季題さえ入っていれば、題材は何を詠んでも良い

川を見るバナナの皮は手より落ち 高浜虚子

季題がなければ、作れば良い

芽(春) カーテン(夏) ヘルメット(夏)

虚子は、無季俳句も作った

祇王寺の留守の扉(とぼそ)や推せば開く //

偽名も使って、無季俳句を作った

我に似し人を気おひてけなしけり 谷口 清